

インターネット・アンケートを利用した医学研究

本邦における現状

ヤスナガ ヒデオ イデ ヒロオ イマムラ トモアキ オオエ カズヒコ
康永 秀生* 井出 博生* 今村 知明* 大江 和彦*

アンケート調査の方法として、従来から郵送調査法・面接調査法などが汎用されている。インターネット調査法の医学研究への適用は、その有用性や妥当性についていまだ評価が確立していない。今回、2005年4月現在までに報告された、インターネット・アンケートを利用した邦文医学研究論文36編をレビューした。インターネット調査法を用いた原著論文の絶対数は、近年若干の増加傾向を認めるものの依然として少ない。アレルギー疾患（アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など）など、青壮年層の患者数が多い疾患を対象とした研究が比較的多い。従来法と比較して、インターネット調査法の利点として、(1)調査者・回答者双方の利便性が高い、(2)データ回収が迅速である、点が挙げられる。欠点として、(1)利用者の年齢層が偏っている、(2)モニター登録という有意抽出法が採用されるため、無作為抽出法と比較して標本誤差が発生しうる、点が挙げられる。しかしながら、近年のインターネットの爆発的な普及拡大によって、利用者の年齢層の偏りは解消されていくことが期待される。高齢者層にもアンケート対象が拡大すれば、より多くの疾病について研究が可能となる。インターネット調査法の利点を考慮すれば、今後は社会医学・臨床医学研究における有力なツールのひとつになりうると考えられる。

Key words : インターネット・アンケート, アンケート, 医学研究

* 東京大学医学部附属病院企画情報運営部
連絡先：〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部附属病院企画情報運営部
康永秀生